



清水の郷

城下町はタイムトラベルのように、過去に現在にと人の心を誘う。

ビルの立ち並ぶ本通りを避けて、裏小路をただぶらりぶらりと気ままに歩いて行くと、井戸や水路の多いのに驚く。

源智の井戸付近は特に水路が多い。家と家の隙間のような細い路地わきを清水が豊かに流れている。生活道路になっているのか、水路には蓋がされていて時折見失うこともあるが、路地を右に左に曲がりながらしばらく歩くと、またひょっこり流れに出会う。流れの脇に、どこにでもある雑草の類の草花などがけなげに咲いているのを眺めながら、不思議に心が和む。

家並みも、住む人もすっかり変わっていても、こんこんと湧く水路の流れは、かつての城下町のまま、今を流れているのだろう。やがてこれらの小さないくつもの流れは、女鳥羽川に注がれている。城下町形成のために、かつて大門沢の流路であった女鳥羽川の流れを、松本城の堀代わりとするよう、現在の女鳥羽川の位置に流れを変えたという。なんともダイナミックな先人たちの構想だが、その護りが松本の城下町を支えたのだろう。

幅広くゆったりとした女鳥羽川には、鯉の群れが静かに流れに逆らって泳ぎ、カモは中洲で休んでいた。千歳橋の欄干に身を乗り出して、幾組かの親子連れやカップルが、それを眺めている。遠くから見ていると、それは一つの風景のように今に昔が重なって行った。

2007. 9. 27 土崎 絢子